

活気づいた利用者

選別・洗浄作業

軽井沢福祉園

軽井沢福祉園は、重度の知的障害者が生活をしている施設です。ここでは施設入所者によって、キャップに張られているシールをはがす作業と、キャップ以外のものを取り除く点検作業が行われています。選別されたものは、洗濯機で洗浄して乾燥させています。皆さんの作業を見学させてもらいました。

作業をしている入所者一人ひとりが真剣な表情で手を動かす、何のともないもなく慣れた手つきで選別していました。

シールをはがす人、除外したキャップを運ぶ人、選別したものを運ぶ人が流れ作業をしているかのように、作業が続けられています。

キャップの汚れが大変

作業中のかたが教えてくれました。

みんな楽しく作業していても、選別後に洗浄しても落ちない汚れがやっかいなんです。

汚れが取れないものは、一晚漂白剤に漬けておくんです。歯ブラシを使って洗うこともあります。最後は乾かします。少しでも水が付いているとだめなので、タオルで拭き取ります。



一生懸命、選別作業に取り組んでいました



今泉 まき子施設長

積極的に作業に参加

施設長の今泉まき子さんにお聞きしました。

昨年4月に市環境課から話があつて、施設入所者の機能訓練にもなるのではないかと、思つて引き受けました。入所者も重度で高齢化しているの、無理なく作業の出来る範囲で行っています。

作業には約30人が参加して、週に3回、午前または午後に行っています。昨年は、1カ月で200kgの量を処理していました。でも今はそれ以上もできません。これまで作業に参加できなかったかたや離れて見ていたかたが、シールはがしや選別作業に参加するようになったからなんです。みんなのほころんだ顔も多

くなつたし、生活にも活気が出てきたように思えます。

エゴに取り組み気持ち

みんな一生懸命頑張つてくれますが、洗つたキャップ一つ一つ拭いて乾かさなければならぬので大変なんです。ここでは入所者の機能訓練作業として行っていますが、処理できる量は今が限界。もつと他の施設や団体にも話して、回収・選別が出来るようになればいいなと思つています。

キャップ収集には小学校、施設、市といるるなかたたちが携わつて、うまく巡っているなと思つています。捨てるものをリサイクルして、エゴに取り組み気持ちを広げていくのは大事ですからね。



洗浄したあと、広げて乾燥

私たちもキャップ集めに取り組んでいます



中神明町 町内会長
武石 弘さん

ブルタブなどは10年前から集めていたんですが、城西小学校がモデル校になつて回収を始めたのをきっかけに、私たちもキャップの回収運動に取り組みようになりました。

町内会の方々の協力もあり集まるようになったので、私が入りまゝとめて直接学校に持つていくか、朝のラジオ体操のときに子供たちに渡しています。最近は協力してくれるかたがどんどん増えてますよ。

一緒に運動に取り組むことで町内の中のかながりを維持していけるし、子供たちも地域の一員なんだという自覚を持つてくれると思うんです。こういう運動を通じて、子供たちに物を大事にする心を育てていきたいですね。

これからも、みんなで循環型リサイクル運動に協力していこうと思つています。